

第1回
長良川遊水地河川環境調査検討会
資料4

長良川遊水地 横越地区・池尻地区について

令和3年12月24日

国土交通省 中部地方整備局

木曾川上流河川事務所

第1章 流域及び河川の現状と課題

第2節 河川整備の現状と課題

第1項 洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する現状と課題

岐阜県が内ヶ谷ダムを建設中であり、将来的には一定の洪水調節が期待できるものの、東海環状自動車道の整備等に伴う地域開発が進むなか、本来、指定区間の霞堤部等において有していた遊水機能による洪水調節機能を将来的にも確保するための早急かつ計画的な対応が必要である。

第3章 河川の整備の実施に関する事項

第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

第1項 洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する事項

1 水位低下

(3) 洪水調節機能の強化

②遊水地等の整備

長良川において、戦後最大規模の洪水〔平成16年（2004）10月洪水〕を安全に流下させるため、**板取川合流点から下流の区間において遊水機能を活かした洪水調節として基準地点忠節において戦後最大規模の洪水に対して約200m³/sの流量低減を見込む遊水地等を整備する。**

なお、整備にあたっては、当該地域の開発状況と遊水地計画を総合的に検討し、**地域の振興に資するような開発プロジェクトと協調を図る**など岐阜県をはじめとする関係機関と十分な調整・連携を図るとともに、**既往の洪水に対する当該地域の浸水対策を併せて検討する。**遊水地等の位置・諸元等の詳細については今後検討し決定していく。

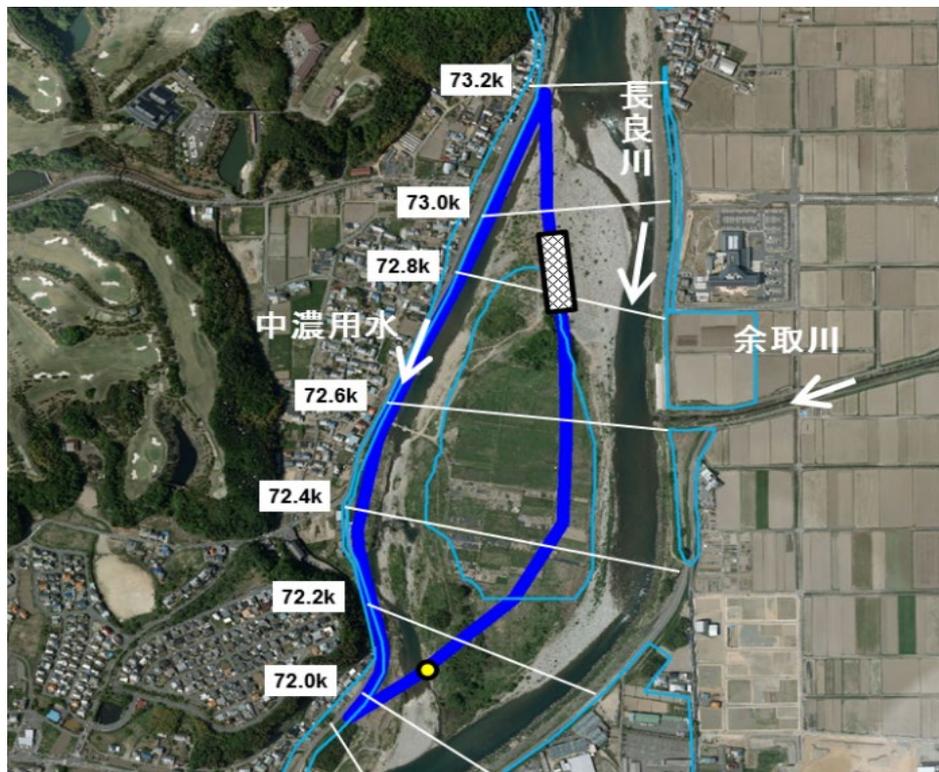


河川名	基準地点	目標流量	洪水調節施設による洪水調節量	河道整備流量 (河道の整備で対応する流量)	備考
長良川	忠節	8,100m ³ /s	400m ³ /s※	7,700m ³ /s	平成16年10月洪水対応

※【木曾川水系流域委員会 資料における説明 洪水調節：内ヶ谷ダム（R7年度完成予定）200m³/s 遊水地200m³/s 1

○平成30年度までの木曾川水系流域委員会において示した6箇所の長良川遊水地候補地から、戦後最大流量を記録した平成16年10月洪水と同規模の洪水に対応するための整備箇所として抽出した候補地について、河川に関し学識経験を有する委員の方々に意見をお聴きし、令和元年度第1回木曾川水系流域委員会において、美濃市横越地区及び関市池尻地区の2箇所が長良川遊水地の候補箇所として選定された。

美濃市横越地区



関市池尻地区



- 凡例
- 越流堤
 - 開口部
 - 排水樋門
 - 平成16年10月洪水での浸水範囲

遊水地の概要

河川名	施行の場所	機能の概要等		
		湛水面積(ha)	容量(万m ³)	目的
長良川	右岸	約20	約144	洪水調節
	右岸	約20	約55	

■令和元年度 第1回、第3回流域委員会における河川環境への配慮事項のまとめ

- 横越地区では遊水地内の掘削や築堤により、副流路で確認されている魚類のアジメドジョウやアカザ、イトモロコ、底生動物のコオイムシの生息場は改変されるが、これらの種は周辺の本川でも確認されており、施工に際し可能な限り調査・移植を行うことで、影響を軽減することが可能である。河道管理にあたっては、河道内ではカワラヨモギ、カワラハハコなどが生育する多様な地盤高が創出されるよう、緩勾配として礫河原が形成される環境の創出に努める。
- 長良川中流域においてはネコギギ、オオサンショウウオが確認されているが、平水位以上の河道掘削であるため、生息環境である本川の水際部の直接改変は行われない。
- 工事により発生する土砂や水の濁りが影響を与えないよう、工事実施時には配慮する。

美濃市横越地区



- ①副流路を改変するが確認種は本川側にも生息しており、移植等により影響を軽減する。
- ②流下能力確保のために河道掘削を行うが、平水位以上の掘削であり本川水際部は直接改変しない

関市池尻地区



- ①本川を改変するような施工を行わない。
- ②水門設置箇所では、堤内地との連続性を確保する。
- ③周囲堤の施工にあたっては、魚類の移動環境に配慮する。

➡ 事業箇所及び周辺含めた環境調査を継続し、重要種の分布を確認するとともに生息環境の保全と配慮に努めていく。

＜本検討会の目的＞

遊水地の整備にあたっては、事業箇所及び周辺を含めて環境調査を継続し、重要種の分布を確認するとともに、生態系に配慮して生息環境の保全に努めていくこととされている。

本検討会では、その具体的な手法を検討することを目的とする。

＜本検討会の検討事項＞

- 事業箇所及び周辺を含めた環境調査・対策手法の検討
- 重要種の分布の確認
- 継続的な環境調査への助言
- その他事務局が必要と判断したもの

○第1回委員会（令和3年12月24日）

- 本検討会の背景・目的
- 横越地区、池尻地区の環境特性
- 長良川遊水地事業における河川環境保全の基本的な考え方について

○第2回委員会

- 調査及び移植対象種の選定について
- 環境調査及び対策手法について
- モニタリング計画について

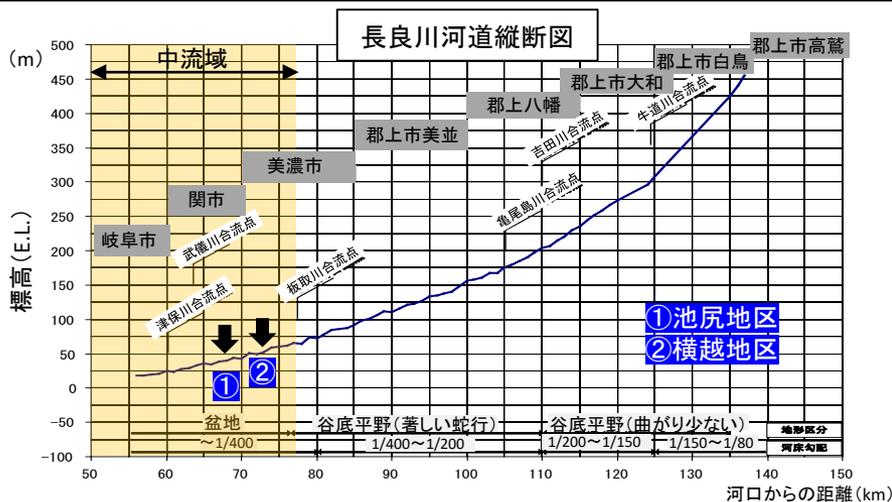
○第3回委員会

- 調査・対策手法及びモニタリング計画の取りまとめ

＜地形および河道特性＞ 板取川から伊自良川合流点までの中流域では、背後地が扇状地地形となっており、河床勾配が 1/400 程度、川幅が 300～400m 程度、河床材料粒径が 60 mm であり、セグメント1に分類される区間である。河道は瀬と淵が交互に連なりながら蛇行し、河川敷には砂礫河原が広がる。

＜自然環境＞ 中流域には、清流に生息する魚とされるアジメドジョウ等のドジョウ類、オイカワ等のコイ科の魚類が生息している。また、上流域から中流域の広範囲に天然記念物であるネコギギや特別天然記念物のオオサンショウウオが生息している。

＜河川利用＞ 関市小瀬地先では鵜飼が行われているなど漁業が盛んで、ヤナ漁やアユの友釣りをはじめとした伝統的な漁法も数多く伝えられている。また、散策、自然観察、水浴、釣り、ラフティング、キャンプといった多様な河川利用がなされている。

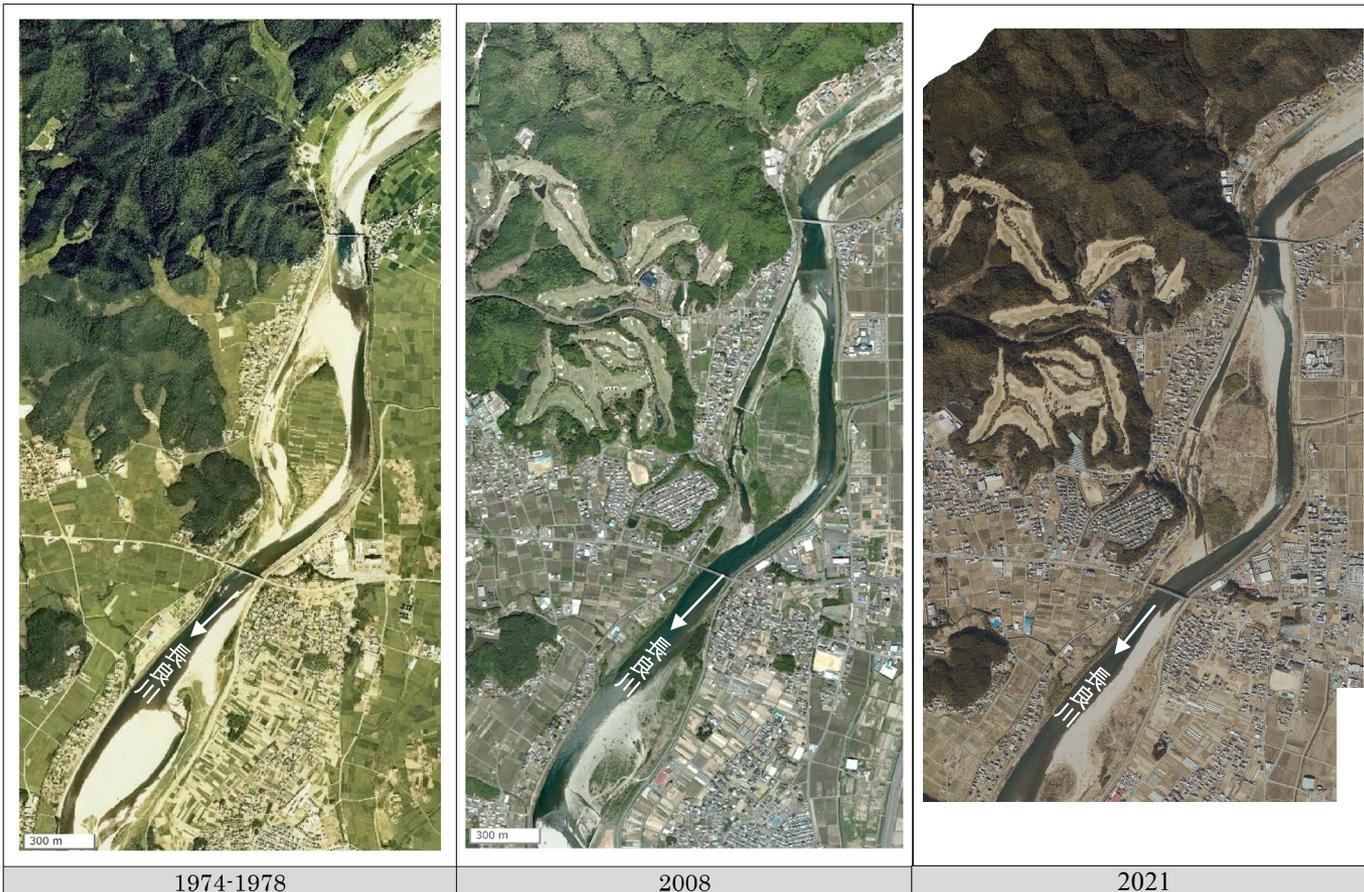


長良川中流域 位置図

出典:長良川中流域における総合的な治水対策プラン参考資料 I (一部追記)

<p>河道の経年変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1970年代は、砂礫河原が広く形成されていたが、近年は植生が発達し、砂礫の面積が減少している。 ・遊水地区間の中州は洪水時には冠水するものの、位置や大きさはあまり変化していない。 ・横越地区付近の河川堤防は、概ね計画高水位まで整備されているが、平成16年10月洪水においては、左岸では主に越水、右岸では主に山崎大橋より上流付近での溢水に加え、内水氾濫等による浸水が見られた。また、一部の護岸では老朽化が進行している。
<p>土地利用の経年変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・左岸側は圃場整備、右岸側は宅地・ゴルフ場整備など周辺の土地利用は変化している。 ・遊水地区間の副流路(内川)は、人為的に掘削されており、平常時は釣り堀として利用されている。 ・遊水地区間の中州は耕作地等として利用されてきたが、近年の耕作地利用は減っている。

横越地区付近の経年変化



横越地区 遊水地付近の拡大図



※今後の詳細な検討により変更される可能性があります。

<p>河道の経年変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1970年代は砂礫河原が広く形成されていた。現状でも池尻地区に隣接する砂州に大きな変化は見られない。 ・鮎之瀬大橋の上下流付近は、霞堤となっており、現状でも洪水時には冠水する。特に平成16年10月洪水においては、周辺の家屋にも浸水被害が及んでいる。 ・鮎之瀬大橋下流側へ池ノ川が合流している。
<p>土地利用の経年変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・堤内地は、以前より耕作地として利用されてきたが、近年も営農活動が盛んに行われており、土地利用に大きな変化はない。 ・長良川本川では、小瀬鶉飼が行われている。



平成16年10月洪水における浸水状況

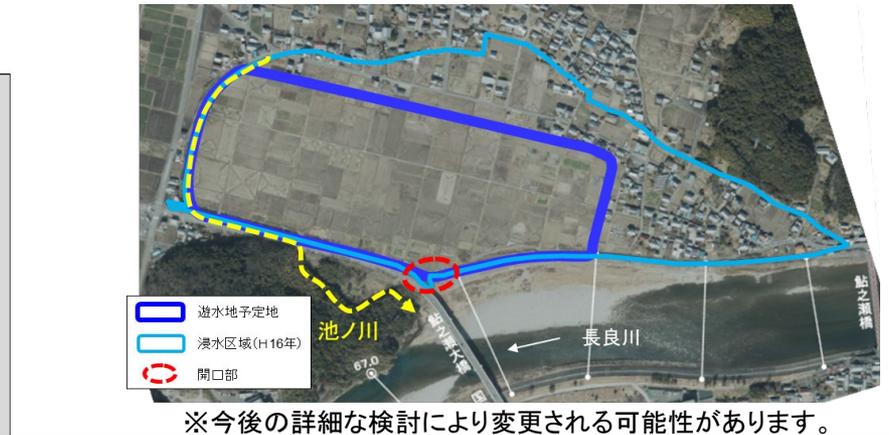
池尻地区付近の経年変化



1974-1978



2008



※今後の詳細な検討により変更される可能性があります。

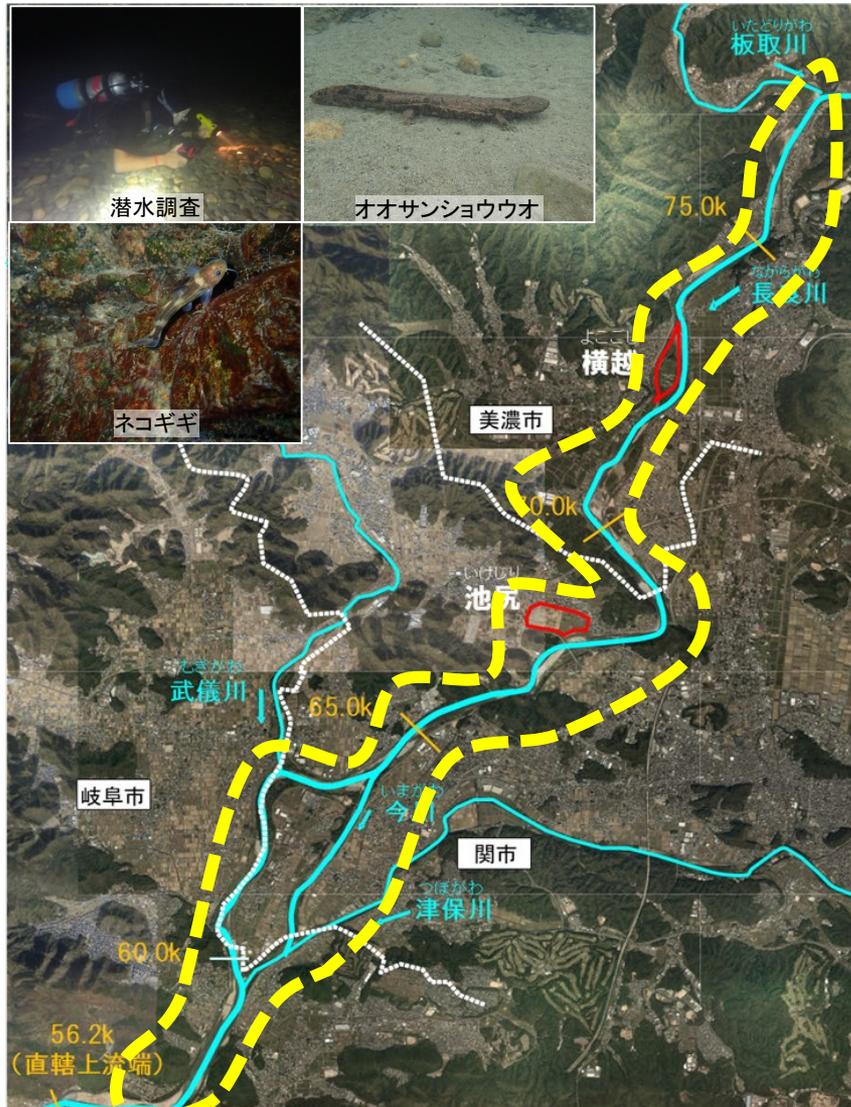


2021

既往調査の実施状況と確認された重要種

- ・長良川中流域では国、岐阜県において環境調査を実施している。
- ・実施した調査において、ネコギギ、オオサンショウウオをはじめとした重要種が確認されている。

長良川約57～約80k間で実施された環境調査の位置図



長良川約57～約80k間で確認された重要種一覧

種類	種名	重要種カテゴリー		
		文化財保護法	環境省RL	岐阜県RDB
魚類	スナヤツメ類		VU	II or 準
	ニホンウナギ		EN	
	ヤリタナゴ		NT	準
	アブラボテ		NT	準
	ヌマムツ			準
	ウシモツゴ		CR	I
	カワヒガイ		NT	
	ぜぜら		VU	
	イトモロコ			準
	ドジョウ		NT	
	トウカイヨガタスジシマドジョウ		EN	
	アジメドジョウ		VU	
	ネコギギ	天然	EN	I
	アカザ		VU	
	サツキマス (アマゴ)			準
カジカ		NT		
チチブ			NT	
カマキリ		VU		
底生動物	マルタニシ		VU	準
	コシダカヒメモノアラガイ		DD	
	ナガオカモノアラガイ		NT	
	トンガリササノハガイ		NT	II
	マツカサガイ		NT	II
	キイロサナエ		NT	
コオイムシ		NT		
昆虫類	コオイムシ		NT	
	タガメ		VU	II
	コシロシタバ		NT	
	クロゲンゴロウ		NT	
	コガムシ		DD	
	ヤマトアシナガバチ		DD	
ヤマトスナハキバチ本土亜種		DD		
鳥類	ヒクイナ			準
	カイツブリ			準
	ケリ		DD	
	ミサゴ		NT	
	オオタカ		NT	準
	サンバ		VU	準
	ハチクマ		NI	準
ハヤブサ		VU	準	
両生類	オオサンショウウオ	特天	VU	II
	トノサマガエル		NT	
爬虫類	ニホンイシガメ		NT	準
哺乳類	カヤネズミ			準
植物	クヌギ			不足
	ミズマツバ		VU	

文化財保護法 特天：特別天然記念物、天然：天然記念物
 環境省RL (2018) CR：絶滅危惧 I A類、EN：絶滅危惧 I B類、VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足
 岐阜県RDB (2010) I 類：絶滅危惧 I 類、II 類：絶滅危惧 II 類、準：準絶滅危惧、不足：情報不足

出典：長良川自然環境調査 (H13；魚類、底生動物、昆虫類、鳥類、両生類、爬虫類、哺乳類、植物) 【岐阜県】
 河川水辺の国勢調査 (H12；魚類) 【国土省、岐阜県】
 長良川中流部環境調査 (H27～R1；魚類、底生動物、昆虫類、鳥類、植物) 【国土省】
 ※赤色アンダーラインは、令和元年度木曾川水系流域委員会後に新たに確認された重要種

・長良川遊水地の整備における河川環境保全の基本的な考え方は以下のとおり。

①生息地が直接改変されず、濁水等の間接的な影響も受けない範囲

工程	整備前		整備中		整備後	
対象	重要種	その他の確認種	重要種	その他の確認種	重要種	その他の確認種
調査	水辺の国勢調査					
対策	—					

②生息地が直接改変されないが、濁水等の間接的な影響を受ける範囲

工程	整備前		整備中		整備後	
対象	重要種	その他の確認種	重要種	その他の確認種	重要種	その他の確認種
調査	水辺の国勢調査		水辺の国勢調査 (必要に応じ個別調査)	水辺の国勢調査	水辺の国勢調査	
対策	—		(必要に応じ保全対策)	—	—	

③生息地が直接改変される範囲

工程	整備前		整備中		整備後	
対象	重要種	その他の確認種	重要種	その他の確認種	重要種	その他の確認種
調査	水辺の国勢調査 個別調査	水辺の国勢調査	水辺の国勢調査 (必要に応じ個別調査)	水辺の国勢調査	水辺の国勢調査	
対策	移植※	移植※	(必要に応じ保全対策)	—	—	

※具体的な移植対象種は第2回検討会以降に選定する。